

前年度における教育行政の総括

市立図書館

事務事業名	区分	内容
市立図書館や学校図書館の有効活用による読書活動の推進 ※	項目	子ども読書活動・学校図書館活用事業
	現状	<p>・市の図書館行政はブックスタートからはじまり、高齢者サービスまで文字通り市民のライフサイクル全般にわたる読書・調査・研究を支えている。しかし、本との出会いが最も必要とされる小中学校の時期は学校で過ごす時間が長く、市立図書館の児童・ティーンズサービスだけでは充分でなく、学校図書館が機能する事が不可欠である。</p> <p>学校図書館担当としては、司書教諭(12学級以上)や学校図書館担当教諭(12学級未満)が配置されているが、担任と兼務となっているため、十分な活動が保証されてこなかった。平成26年度、平成27年度と、順次学校司書を配置し、学校図書館の本来の目的である児童生徒や教師に対するサービスを行い、本との出会い、読書の楽しさを実感できる環境を創出し、調べ学習への対応が行えるよう学校図書館の整備が推進されている。</p>
	課題・懸案事項	<p>平成26年度より事業を開始したが、今後、小学校全校に展開する計画の中では以下の懸案事項が考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校司書の人材確保 ② 学校司書配置校の検討決定 ③ 後年度配置校増加による司書配置計画の見直し ④ 学校司書支援のための正規職員の採用 ⑤ 学校司書の作業場など執務スペースの確保 ⑥ コンピュータ導入によるシステム化 ⑦ ネットワーク環境の整備 ⑧ 市立図書館のコンピュータシステム更新に合わせた検討 <p>※小学校で学校図書館を利用し育った児童は、引き続き中学校でも整備された学校図書館が用意されるべきであり、今後の事業の継続性を考え、中学校の学校図書館整備も検討・計画していく必要がある。</p>
	目標及び対応方針	<p>・市立図書館と連携した学校司書を各小学校に計画的に配置し、学校図書館を有効活用することにより児童生徒の読書活動の推進を図り、学力の向上に寄与する。</p> <p>平成27年度は小学校8校に5名を配置し、学校教育課と十分な連携をとりながら学校や学校図書館現場の調査や意見を聴取し、学校図書館の整備を行うとともに、それに基づいた学校司書への研修を行う。</p> <p>学校司書の配置より以下の効果が期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 読書の楽しさが実感でき、読書の継続性が確保される ② 読書の習慣化による学力の向上が期待できる ③ 学校図書館の整備促進がなされる <ul style="list-style-type: none"> ・蔵書整備の促進(本の購入、本の整理など) ・貸出し、利用の増加 ・機械化、電算化、システム化の促進 ・統計資料を使った調査・検討と効果的な運営 ④ 多様な資料を活用した授業展開の促進 ⑤ ボランティアとの連携強化 ⑥ 社会的インフラである市立図書館との連携強化(市立図書館蔵書の活用促進)と、市立図書館を通じた県立図書館や県内外図書館との連携

※ 白河市みらい創造総合戦略

Ⅱ若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(3)社会を生き抜く力を育む教育の充実

①市立図書館や学校図書館の有効活用による読書活動の推進